

図2 全身副反応の症状別頻度(重複有り)

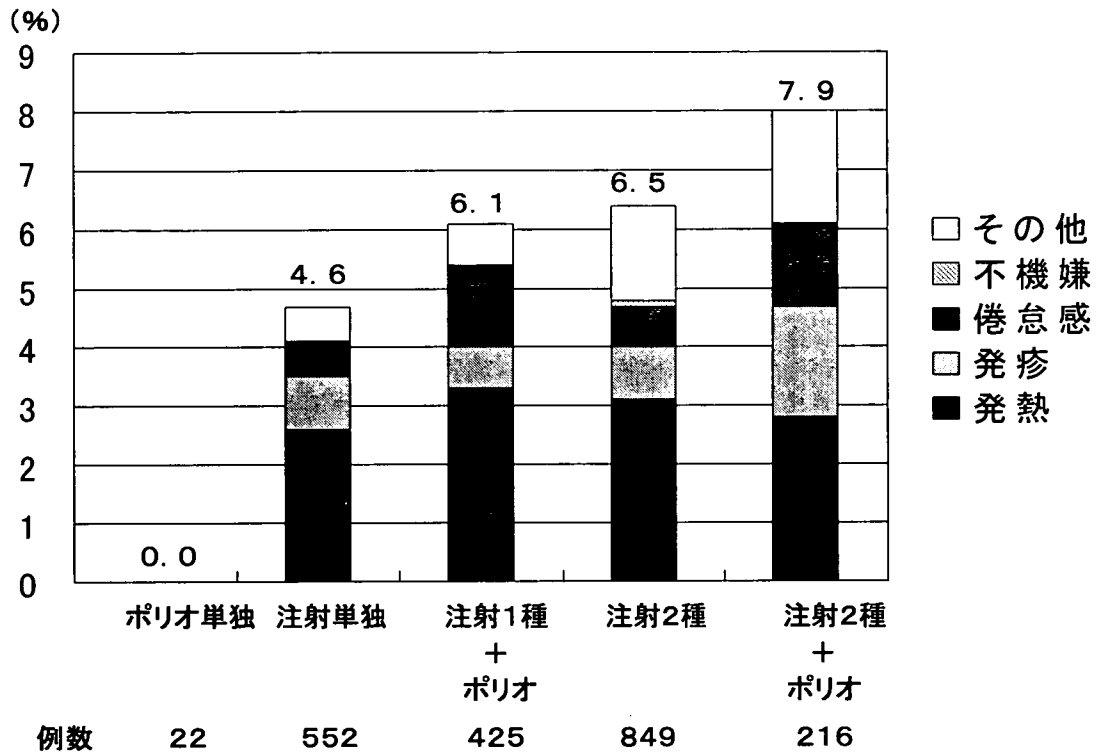


図3 単独/同時の局所副反応陽性率比較

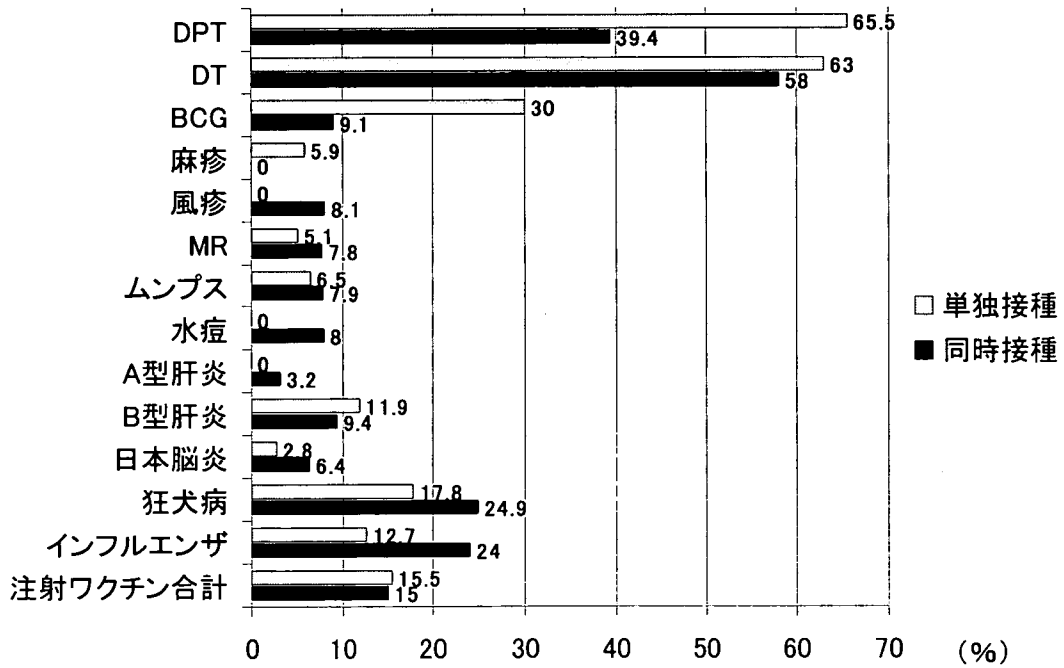


図4 局所副反応の症状別頻度

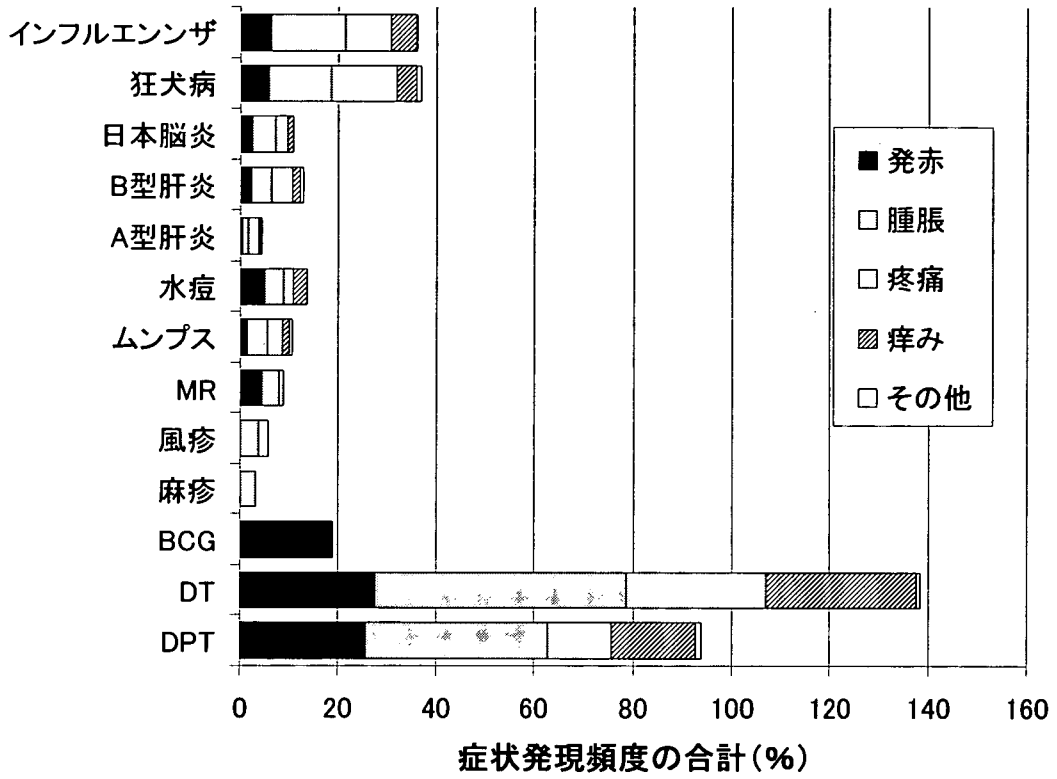


図5 局所副反応の発症時期
(注射ワクチン3085回接種の合計)

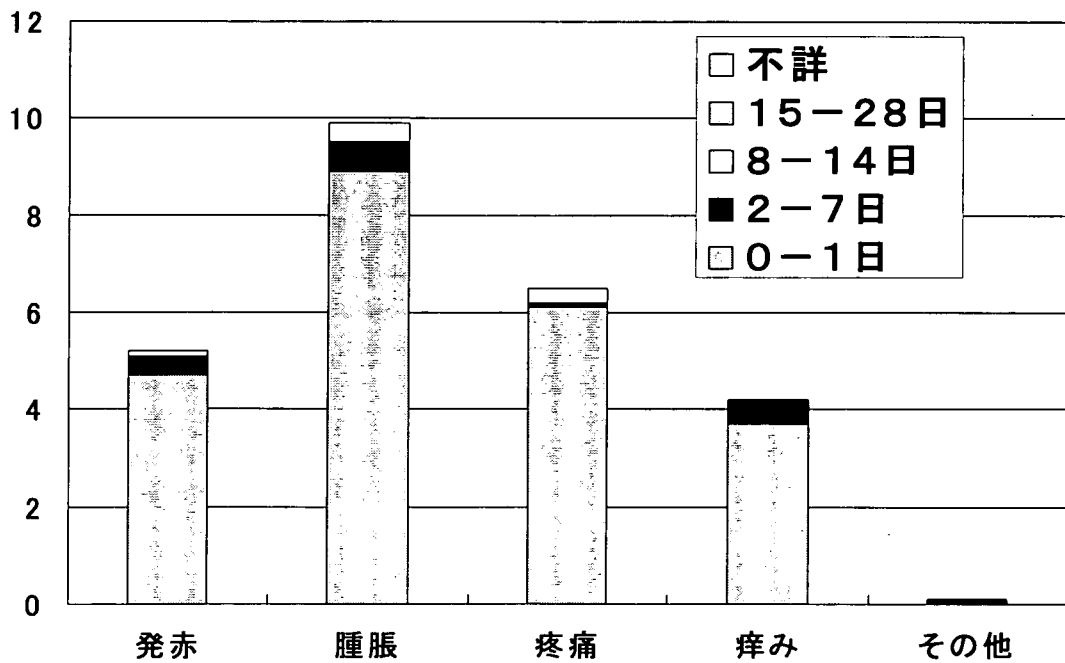


表1 副反応調査期間中の使用ワクチンとそのLot.番号

ワクチン名	メーカー	商品名
DPT	武田薬品工業	沈降精製百日咳ジフテリア破傷風混合ワクチン
DT	武田薬品工業	沈降ジフテリア破傷風トキソイド
ポリオ	日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン
BCG	日本ビーンジー製造	乾燥BCGワクチン
麻疹	武田薬品工業	乾燥弱毒生麻しんワクチン
ムンプス	第一製薬	乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン
風疹	田製製薬	乾燥弱毒生風しんワクチン
MR	田辺製薬	ミールビック
水痘	田辺製薬	乾燥弱毒生水痘ワクチン
日本脳炎	武田薬品工業	日本脳炎ワクチン
A型肝炎	アステラス製薬	エイムゲン
B型肝炎0.25	アステラス製薬	ビームゲン
B型肝炎0.5	アステラス製薬	ビームゲン
狂犬病	アステラス製薬	狂犬病ワクチン
インフルエンザ	北里研究所	インフルエンザHAワクチン「S北研」

表2 年齢別ワクチン接種数

年齢(歳)	例数	ポリオ	DPT	DT	BCG	麻疹	風疹	MR	ムンプス	水痘	A型肝炎	B型肝炎	日本脳炎	狂犬病	インフルエンザ	合計
0	160	83	76	0	18	0	0	0	0	0	9	97	0	3	2	288
1	223	48	13	0	2	5	17	10	49	32	31	103	21	18	42	391
2	171	48	11	0	0	0	3	0	30	16	39	85	17	28	31	308
3	144	43	2	0	0	0	2	1	25	15	25	77	16	19	27	252
4	192	64	9	1	0	2	1	5	32	15	33	104	7	21	46	340
5	169	54	22	1	0	2	2	11	24	5	33	97	2	21	42	316
6	132	43	18	2	0	2	2	16	23	4	14	68	3	12	29	236
7	147	47	3	27	1	1	3	10	16	4	23	76	1	22	39	273
8	123	39	0	35	0	3	2	9	18	1	13	74	0	7	30	231
9	133	44	1	26	0	1	3	13	15	1	26	71	6	18	33	258
10	123	31	1	28	0	2	1	9	14	3	23	56	3	25	35	231
11	93	34	3	13	0	3	4	7	17	3	11	60	0	5	24	184
12	89	33	1	7	0	3	3	7	13	2	18	47	1	16	24	175
13	53	22	0	2	0	2	4	2	5	0	9	33	4	5	10	98
14	53	19	0	2	0	4	2	7	11	1	5	34	2	4	6	97
15	37	11	0	3	0	1	3	5	8	1	5	23	0	2	8	70
合計	2042	663	161	147	21	31	52	112	299	103	317	1105	83	226	428	3748

表3 接種パターン群分類

グループ名	接種方法	例数
単独接種	1-1群 ポリオワクチン単独接種	22
	1-2群 注射ワクチン単独接種	530
同時接種	2-1群 注射ワクチン1種+ポリオワクチン	425
	2-2群 注射ワクチン2種同時接種	849
	3群 注射ワクチン2種+ポリオワクチン同時接種	216
合計		2042

表4 全身副反応頻度

接種パターン群		例数	全身有害事象		全身有害事象の内訳(重複有り)														
群名	接種組み合わせ		症例	(%)	全身アナフィラキシー	発熱	発疹	倦怠感	不機嫌	その他	合計数	率(%)							
1-1	ポリオ単独	22	0	0.0	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	0.0			
1-2	注射単独	530	21	4.0	0	(0)	14	(2.6)	5	(0.9)	3	(0.6)	0	(0)	3	(0.6)	25	4.7	
2-1	注射1種+ポリオ	425	20	4.7	0	(0)	14	(3.3)	3	(0.7)	6	(1.4)	0	(0)	3	(0.7)	26	6.1	
2-2	注射2種	849	43	5.1	0	(0)	26	(3.1)	8	(0.9)	6	(0.7)	1	(0.1)	14	(1.6)	55	6.5	
3	注射2種+ポリオ	216	17	7.9	*p<0.05	0	(0)	6	2.8	4	(1.9)	3	(1.4)	0	(0)	4	(1.9)	17	7.9
合計		2042	101	4.9		0	(0)	60	(2.9)	20	(1.0)	18	(0.9)	1	(0.0)	24	(1.2)	123	6.0

注:有意差は1-2群(注射単独接種群)との比較。

表5 発熱例の詳細

接種群	例数	発熱例	熱の高さ(最高計測値)				発現時期(ワクチン接種日=0)					発熱期間							
			37°C台	38°C台	39°C以上	不詳	0-1日	2-7日	8-14日	15日以降	不詳	1日	2-3日	4日以上	不詳				
1-1	22	0																	
1-2	530	14	2	9	3		8	4	1	1			5	8	1				
2-1	425	14	4	6	4		11	2	1				1	11	1	1			
2-2	849	26	3	18	5		15	7	3	1			13	7	5	1			
3	216	6	2	1	2	1	2	3	1				2	3					
合計	2042	60	11	34	14	1	36	16	6	2	0	21	29	7	3				
			18%	57%	23%	2%	60%	27%	10%	3%	0%	35%	48%	12%	5%				

表6 全身副反応「その他の症状」の全容

群	例数	その他の有害事象と(いずれも1例ずつ)	
1-1	ポリオ単独	0/22	なし
1-2	注射単独	3/530	D0:嘔吐、D12-15:咳と鼻汁、D18-23:耳下腺部痛
2-1	注射1+ポリオ	3/425	D0:頭痛/嘔気、D0-1:頭痛/下痢、D1:胃腸症状
2-2	注射2	14/849	直後:嘔吐、D0:嘔吐、D0:寒気、D1:嘔吐、D1:頭痛、D1-20:下痢、D2-5:下痢、D4:咳、D9-10:嘔吐、D4-5:嘔気/下痢、D10-12:下痢、D13-16:咳/鼻汁、D14:耳下腺部腫脹、D25:咳/鼻汁
3	注射2+ポリオ	3/216	D0:頭痛、D1-5:下痢、D11-12:耳下腺部腫脹

(D数字は接種日を0として症状発現時期を示す)

* 察期間中に全身アナフィラキシー症状及び入院治療を要した有害事象はなかった

表7 ワクチン別局所副反応のまとめ

ワクチン	接種例数	局所副反応陽性		局所副反応の程度総合評価			
		例数	陽性率(%)	軽度	中等度	重度	不祥
ポリオ	663	15	2.3	11	0	0	4
DPT	161	71	44.1	39	22	2	8
DT	146	86	58.9	31	41	8	6
BCG	21	4	19.0	2	0	0	2
麻疹	31	1	3.2	1	0	0	0
風疹	52	3	5.8	2	0	1	0
MR	112	7	6.3	5	2	0	0
ムンプス	299	22	7.4	15	4	0	3
水痘	103	6	5.8	4	2	0	0
A型肝炎	322	10	3.1	9	0	0	1
B型肝炎	1101	106	9.6	84	10	2	10
日本脳炎	83	4	4.8	1	1	0	2
狂犬病	226	53	23.5	23	12	1	17
インフルエンザ	428	91	21.3	50	22	2	17
注射合計 (%)	3085	464	(15.0)	266	116	16	66
				(8.6)	(3.8)	(0.5)	(2.1)

表8 局所副反応の重症度判定基準

症状	軽度	中等度	重度	総合評価
発赤	<5cm	5~9cm	≥10cm	最も強い症状の程度を重症度の総合評価とする。 (発赤・腫脹の大きさは直径で示す)
腫脹	<5cm	5~9cm	≥10cm	
疼痛	弱い	強い		
痒み	弱い	強い		

研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
尾内一信	ワクチンの最新事情 と渡航者の接種 髄膜炎菌ワクチン	日本医事新報	(4360)	73-76	2007
Ndembi N, Ichimura H et al	Molecular Characterization of HIV-1 and HIV-2 in Yaounde, Cameroon: Evidence of Major Drug Resistance Mutations in Newly Diagnosed non-B Infected Patients.	J Clin Microbiol	46(1)	177-84	2008
Takemoto K, Ichimura H et al	Transiently, paralleled upregulation of arginase and nitric oxide synthase and the effect of both enzymes on the pathology of asthma.	Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol	293(6)	L1419-26	2007
Yusuke Koizumi, Hiroshi Ichimura, et al	<i>RANTES</i> -28G delays and <i>DC-SIGN</i> -139C enhances AIDS progression in HIV-1-infected Japanese hemophiliacs.	AIDS Res Hum Retroviruse s	23(5)	713-9	2007
Raphael Lwembe, Hiroshi Ichimura, et al	Anti-retroviral drug resistance- associated mutations among non-subtype B HIV-1 infected Kenyan children with treatment failure.	J Med Virol	79(7)	865-72	2007
庵原俊昭	海外長期滞在小児の ワクチン接種	日本医事新報	(4335)	67-71	2007
庵原俊昭	ポリオの現状と問題 点	小児内科	39	1640-1643	2007
中野貴司、 松島卓哉、 城裕之	髄膜炎菌感染症	小児内科	39(11)	1972-1976	2007
萩原敏且	タイの狂犬病	バムサ会誌	19(1)	6-7	2007

濱田篤郎	日本におけるトラベルクリニックの現状と課題	海外勤務と健康	26	26-29	2007
濱田篤郎	海外派遣社員の健康管理	日本医事新報	4318	41-45	2007
濱田篤郎	ワクチンの副反応、臨床対応、補償	日本医事新報	4327	68-72	2007
濱田篤郎、奥沢英一	海外勤務健康管理センターでの感染症対策	公衆衛生	71	582-585	2007
福島慎二、濱田篤郎	ポリオワクチン	日本医事新報	(4358)	70-74	2007
藤井達也	狂犬病ワクチン	日本医事新報	(4346)	72-77	2007
T. Fujii, T. Suzuki	The immune responses to multiple vaccination in a short period.	Vaccine or Journal of Travel Medicine			in press
T. Fujii, T. Suzuki	The antibodies persistence after multiple vaccination in a short period.	Vaccine or Journal of Travel Medicine			in press
Kaji C Watanabe H et al	Antimicrobial effect of fluoroquinolones for the eradication of nontypeable <i>Haemophilus influenzae</i> isolates within biofilms.	Tohoku J Exp Med			in press
Hamada N, Watanabe H et al	A nosocomial outbreak of epidemic keratoconjunctivitis accompanying environmental contamination with adenoviruses.	J Hosp Infect			in press
Watanabe H, et al	Clinical and microbiological characteristics of community-acquired pneumonia among HIV-infected patients in northern Thailand.	J Infect Chemother			in press

Qin L, Watanabe H, et al	Antimicrobial susceptibility and genetic characteristics of <i>Streptococcus pneumoniae</i> isolates indicating possible nosocomial transmission routes in a community hospital in Japan.	J Clin Microbiol	45	3701-3706	2007
Watanabe K, Watanabe H, et al	Drug-resistant pneumococci in children with acute lower respiratory infections in Vietnam.	Pediatric Int			in press
Watanabe H, et al	Possible prevalence and transmission of acute respiratory tract infections caused by <i>Streptococcus pneumoniae</i> and <i>Haemophilus influenzae</i> among the internally displaced persons in tsunami disaster evacuation camps of Sri Lanka.	Intern Med	46	1395-1402	2007
Anh DD, Watanabe H, et al	Increased rates of intense nasopharyngeal bacterial colonization of Vietnamese children with radiological pneumonia.	Tohoku J Exp Med	213		2007
Iwahashi J, Watanabe H, et al	Two hydrophobic segments of the RTN1 family determine the ER localization and retention.	Biochem Biophys Res Commun	335	508-512	2007

Koyama J Watanabe H, et al	Strain-specific pulmonary defense achieved after repeated airway immunizations with non-typeable <i>Haemophilus influenzae</i> in a mouse model.	Tohoku J Exp Med	211	63-74	2007
Qin L, Watanabe H et al	Antimicrobial susceptibility and genetic characteristics of <i>Haemophilus influenzae</i> isolated from patients with respiratory tract infections between 1987 and 2000, including β -lactamase-negative ampicillin-resistant strains.	Epidemiol Infect	135	665-668	2007
渡邊 浩	旅行医学とトラベルクリニック	久留米医学会雑誌	70	179-184	2007
大谷 明	トラベラーズワクチンフォーラムでの話題	日本医事新報	(4341)	74-77	2007
Takiguchi Yu, Nagao K, et al	Phase II study of weekly irinotecan and cisplatin for refractory or recurrent non-small cell lung cancer.	Lung Cancer	58	253-259	2007
Takiguchi Ya Nagao K, et al	Assessment of the homogeneous efficacy of carbon ions in the spread-out Bragg peak for human lung cancer cell lines.	Radiat. Med.	25	272-277	2007
長尾啓一、 新保 泉	大学での麻疹流行－その予兆を対応－	大学と学生	48	35-40	2007

研究班構成名簿

研究班構成名簿

主任研究者

尾内一信 川崎医科大学 小児科学2講座

分担研究者

飯田 稔 バイオメディカルサイエンス研究会
市村 宏 金沢大学大学院医学系研究科 ウイルス感染症制御学
庵原俊昭 国立病院機構三重病院
岡田賢司 国立病院機構福岡病院 小児科
岡部信彦 国立感染症研究所 感染症情報センター
金川修造 国立国際医療センター 国際疾病センター 渡航者健康管理室
木村幹男 (財)結核予防会 新山手病院 第二内科
相楽裕子 横浜市立市民病院 感染症部
寺田喜平 川崎医科大学 小児科学1講座
中野貴司 国立病院機構三重病院 臨床研究部 国際保健医療研究室
中山哲夫 北里大学北里生命科学研究所 ウイルス感染制御学
西山利正 関西医科大学 公衆衛生学教室
萩原敏且 バイオメディカルサイエンス研究会
濱田篤郎 労働者健康福祉機構 海外勤務健康管理センター
藤井達也 自衛隊中央病院 内科医官兼三宿病院一般内科
三木 祐 独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター 呼吸器科
三輪亮寿 三輪亮寿法律事務所
渡邊 浩 久留米大学医学部 感染医学講座 臨床感染医学部門
David R Hill The National Travel Health Network and Center

研究協力者

阿部重人 厚生労働省 那覇検疫所
石田高明 関西医科大学 公衆衛生学
石田尚道 財団法人 海外邦人医療基金
石和田稔彦 千葉大学大学院医学研究院 小児病態学
稲垣俊一 厚生労働省 仙台検疫所
岩崎惠美子 仙台市役所
岩田 敏 国立病院機構東京医療センター 小児科

上野久美	国立感染症研究所 感染症情報センター
大谷 明	バイオメディカルサイエンス研究会
岡田純一	トヨタ記念病院
奥澤英一	労働者健康福祉機構海外勤務健康管理センター 研究情報部
織田慶子	川崎医科大学 小児科学2講座
河合泰宏	川崎医科大学 小児科学2講座
川崎浩三	川崎医科大学 小児科学2講座
大日康史	国立感染症研究所 感染症情報センター
古賀才博	労働者健康福祉機構 海外勤務健康管理センター 健康管理部
酒井 章	外務省 診療所
重松美加	国立感染症研究所 感染症情報センター
高山直秀	東京都立駒込病院 小児科
多田有希	国立感染症研究所 感染症情報センター
多屋馨子	国立感染症研究所 感染症情報センター
長尾啓一	千葉大学総合安全衛生管理機構
波川京子	札幌医科大学 保健医療学部看護学科
南里清一郎	慶應義塾大学 保健管理センター
沼崎 啓	国立感染症研究所 ウイルス第三部
春田恒和	神戸市立中央市民病院 小児科
福島慎二	労働者健康福祉機構 海外勤務健康管理センター 健康管理部
松本高明	バイオメディカルサイエンス研究会
三島伸介	関西医科大学 公衆衛生学教室
水野泰孝	外務省
宮城 啓	長崎大学熱帯医学研究所 感染症予防治療分野
宮津光伸	名鉄病院 予防接種センター
山崎 勉	埼玉医科大学 小児科学
山寺静子	バイオメディカルサイエンス研究会
小橋裕子	川崎医科大学 小児科学2講座

海外旅行者の 予防接種 Q&A



厚生労働科学研究費補助金・新興再興感染症研究事業
海外渡航者に対する予防接種のあり方に関する研究班

はじめに

海外に出国する日本人の数は年々増加しており、2006年には1700万人に達しています。この中には現地で感染症にかかり、医療施設を受診するケースも少なくありません。こうした海外でかかりやすい感染症の予防対策として、旅行者への予防接種の普及が提唱されているところです。このパンフレットは、海外旅行者の方々に予防接種の効果をご理解いただき、その接種を促進することを目的に作成されました。



Q1. 海外旅行を予定していますが予防接種を受けた方がいいですか？

海外では数多くの感染症が流行しています。この病気を防ぐためには、現地での生活上の注意とともに、予防接種を出国前に受けておくことが推奨されています。とくに発展途上国では感染症のリスクが高く、複数の予防接種が候補にあがります。

Q2. 海外ではどんな感染症にかかりやすいのですか？

海外旅行中にかかる感染症として頻度が高いのは、飲食物から感染する下痢症やA型肝炎です(表1)。また、感冒や結核のように患者の飛沫で感染する病気も見られます。さらに発展途上国では、蚊に媒介されるマラリアやデング熱、性行為で感染するB型肝炎や梅毒、動物からかかる狂犬病などにも注意が必要です。

● 表1. 海外でかかりやすい感染症

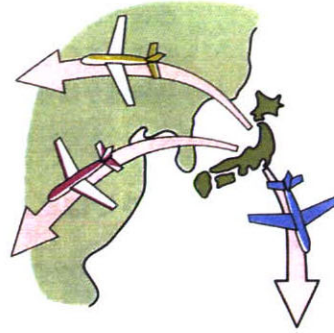
感染経路	生活上の注意	感染症	主な流行地域	主な症状	予防接種の有無
飲食物から感染	<ul style="list-style-type: none"> ミネラルウォーターを飲む 加熱した料理を食べる 	旅行者下痢症	発展途上国	下痢、嘔吐	
		A型肝炎	発展途上国	発熱、黄疸、全身倦怠感	○
		ポリオ	南アジア、アフリカ	発熱、手足の麻痺	○
		腸チフス	発展途上国(とくに南アジア)	発熱、腹痛	○*
患者の飛沫などで感染	<ul style="list-style-type: none"> 手洗いやウガイ 人ごみを避ける 	インフルエンザ	全世界	発熱、咽頭痛	○
		結核	発展途上国	咳・たん、体重減少	○
		流行性髄膜炎	西アフリカなど	発熱、意識障害、頭痛	○*
蚊に媒介	<ul style="list-style-type: none"> 皮膚を露出しない 昆虫忌避剤を塗る 殺虫剤を散布する 	マラリア	発展途上国(熱帯・亜熱帯)	発熱、悪寒	
		デング熱	東南アジア、中南米	発熱、発疹	
		日本脳炎	アジア	発熱、意識障害	○
		黄熱	熱帯アフリカ、南米	発熱、黄疸	○
性行為で感染	<ul style="list-style-type: none"> 行きずりの性行為を控える 医療行為にも注意 	B型肝炎	アジア、アフリカ、南米	発熱、黄疸、全身倦怠感	○
		梅毒	発展途上国	性器潰瘍、発疹	
		HIV感染症	全世界(とくに発展途上国)	発熱、リンパ節腫脹	
動物から感染	<ul style="list-style-type: none"> 動物に近寄らない 	狂犬病	全世界(とくに発展途上国)	恐水発作、けいれん	○
傷口から感染	<ul style="list-style-type: none"> 傷口を消毒する 	破傷風	全世界	口が開かない、けいれん	○

※ 腸チフス、流行性髄膜炎には予防接種がありますが、日本では認可されていません。

Q3. 海外旅行者にはどのような予防接種が推奨されますか？

予防接種は感染症のリスクに応じて選択します。まずはどの地域に滞在するかが大切な情報になります。さらに滞在する期間や現地での行動も感染症のリスクに影響します。たとえば、短期旅行者よりも長期滞在の方が、観光旅行者よりも冒険旅行者の方が、感染症にかかるリスクは高くなるわけです。地域別に推奨される予防接種を表2にまとめました。

ご自分の滞在する地域、滞在期間、行動パターンなどを参考に、推奨される予防接種をご確認ください。



●表2. 地域別に推奨される予防接種 (○：推奨する)

地域名	ワクチン名	短期旅行者 [※]		長期滞在者 (短期旅行者でも通常の観光ルート以外に立ち入る場合を含む)						
		A型肝炎	黄熱	A型肝炎	B型肝炎	破傷風	狂犬病	黄熱	日本脳炎	ポリオ
東アジア (中国、韓国など)		○		○	○	○	○		○	
東南アジア (タイ、ベトナムなど)		○		○	○	○	○		○	
南アジア (インドなど)		○		○	○	○	○		○	○
中近東 (サウジアラビアなど)		○		○	○	○	○			○
アフリカ (ケニアなど)		○	○ (赤道周辺)	○	○	○	○	○ (赤道周辺)		○
東ヨーロッパ (ロシアなど)		○		○	○	○	○			
西ヨーロッパ (イギリス、フランスなど)						○				
北アメリカ (合衆国、カナダなど)						○				
中央アメリカ (メキシコなど)		○		○	○	○	○			
南アメリカ (ブラジルなど)		○	○ (赤道周辺)	○	○	○	○	○ (赤道周辺)		
南太平洋 (グアム、サモアなど)		○		○	○	○	△ (島による)			
オセアニア (オーストラリアなど)						○				

※短期旅行者：滞在期間が1ヶ月未満で都市部やリゾートなどに滞在する者

予防接種の費用

予防接種の費用は健康保険ではカバーされず、自費払いになります。その値段はワクチンの種類や接種施設によりますが、たとえばA型肝炎ワクチンであれば1回につき5,000円～10,000円かかります。

麻疹の予防接種

国内で麻疹の流行が報告されていますが、発展途上国でもまだ多くの患者が発生しています。その一方で、欧米諸国では麻疹が一掃されており、日本人が麻疹を持ち込むケースが報告されています。いずれの国に滞在する場合でも、「麻疹にかかったか?」「予防接種を2回受けたか?」をご確認ください。どちらもなければ、出国前に麻疹ワクチンの接種を受けておくことをお勧めします。なお、血液中の麻疹抗体が陽性であれば、接種の必要はありません。

Q4. 予防接種は何回か受けないと効果がでませんか？

ワクチンの種類によっては、2回以上の接種が必要なものがあります。また、予防接種の効果は次第に弱くなるので、数年毎に接種を繰り返すことが必要です。それぞれのワクチンに必要な回数と有効期間を表3に示します。

複数回の接種が必要なワクチンについては、出国までに少なくとも2回目まで終了しておくようにしましょう。このためには、遅くとも出国の1ヶ月前までに、接種を開始するようにしてください。なお、わが国では一日に一本ずつ接種をする施設が多いようですが、医師の判断で複数のワクチンの同時接種を行うことも可能です。この点については、接種を行う医師とご相談ください。

●表3. ワクチンの接種回数と有効期間

ワクチン名	接種回数	接種日	有効期間
A型肝炎	3回	0日、2～4週後、半年～1年後	5～10年間
B型肝炎	3回	0日、4週後、半年～1年後	10年以上
破傷風 ^{#1}	3回	0日、4週後、半年～1年後	10年間
狂犬病 ^{#2}	3回	0日、4週後、半年～1年後	2年間
黄熱	1回		10年間
日本脳炎 ^{#3}	3回	0日、1～4週後、1年後	4年間
ポリオ ^{#4}	2回	0日、6週後	10年以上

#1 破傷風：1968年以降に生まれた方は、小児期に3種混合ワクチンとして接種を受けていることが多く、その場合は1回だけ接種をします。

#2 狂犬病：海外では0日、1週後、3～4週後の接種間隔をとります。

#3 日本脳炎：大人の場合、通常は1回の追加接種のみを行います。

#4 ポリオ：大人の場合、通常は1回の追加接種のみを行います。

Q5. 海外旅行者向けワクチンはどこで接種してもらえますか？

海外旅行者向けワクチンの接種施設は限られており、それを探すのに苦労する方も多いようです。厚生労働省検疫所や日本渡航医学会のホームページには、日本全国の接種施設のリストが掲載されており、それをチェックするのも一つの方法です。こうした情報を掲載しているホームページを表4に示します。

黄熱ワクチンの接種施設は、検疫所かその関連施設に限られています。予約制の場合も多いので、あらかじめ電話などでお問い合わせください。

● 表 4. インターネット上の情報サイト

● 厚生労働省検疫所 http://www.forth.go.jp 海外の感染症流行情報、推奨予防接種情報、国内の予防接種施設情報
● 国立感染症研究所感染症情報センター http://idsc.nih.go.jp 海外の感染症流行情報、各感染症の解説
● 外務省・渡航関連情報 http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko 国別の生活注意事項、海外医療施設情報
● 海外勤務健康管理センター http://www.johac.rofuku.go.jp 推奨予防接種情報、海外医療施設情報、薬剤情報
● 母子衛生研究会 http://www.mcfh.or.jp 小児の予防接種情報、英文診断書に関する情報
● 海外邦人医療基金 http://www.jomf.or.jp 海外医療施設情報
● 日本渡航医学会 http://www.travelmed.gr.jp 国内の予防接種施設情報
● 日本小児科医会国際部 http://210.230.237.164/~jpa 国内の予防接種施設情報

Q6. 予防接種には副反応がありますか？

接種後に腫れや痛みといった軽い副反応は時々おこりますが、ショック症状やケイレンなど重篤な副反応は大変稀になっています。ただし、アレルギー体質があったり、以前に予防接種で副反応をおこした方については、事前にその旨を医師にご相談ください。また、妊娠中は接種できないワクチンがありますのでご注意ください。



日本で認可されていないワクチンの接種

わが国では腸チフスや流行性髄膜炎のワクチンが認可されていませんが、輸入ワクチンの接種を行っている医療施設が国内にはいくつかあります。こうした医療施設は検疫所や日本渡航医学会のホームページで紹介されています(表4)。



海外旅行とインフルエンザ

旅先が冬のシーズンであれば、インフルエンザの対策が必要です。とくに旅行中は、バスや飛行機など密閉した空間にいることが多く、感染リスクが高くなります。北半球では12月～3月、南半球なら6月～9月が流行の季節です。この時期に旅行される方は、手洗いやウガイなどの予防対策を忘れずに実行してください。なお、日本では10月以降にインフルエンザワクチンが流通します。頻回に旅行される方は事前に接種しておきましょう。

